

「アルメニアのロリ州及びシラク州における生産性向上、食料安全保障及び生計強化に向けた低炭素灌漑技術への移行」案件 開始イベントの実施

5月10日、エレバン市内のIBISホテルにおいて、「アルメニアのロリ州及びシラク州における生産性向上、食料安全保障及び生計強化に向けた低炭素灌漑技術への移行」案件の開始イベントが行われました。

このプロジェクトは、日本政府による資金提供により、UNDPアルメニア事務所がアルメニアの地域行政・インフラ省や環境省、経済省と連携して実施するものです。

本式典には、福島正則駐アルメニア大使、グネル・サノシヤン地域行政・インフラ大臣、ハコブ・シミジャン環境大臣、ナティア・ナツビリシビリUNDPアルメニア事務所代表、関連省庁・機関の関係者が出席しました。

式典においては、上述アルメニア政府の2大臣とUNDP代表が歓迎の辞を述べ、日本政府及び日本大使館への謝意を表明しました。

特に、サノシヤン地域行政・インフラ大臣は、本プログラムには①効率的な水利用、②省エネルギー、③農業の重要性という3つの有意義な要素がある旨述べるとともに、本案件に関する取組が時宜を得た形で適切に実施されるよう、成功を祈念しました。

シミジャン環境大臣は、日本政府の資金協力で実施される本プログラムは、短期の迅速で効果的なプログラムであることを強調しました。また、この新しいプロジェクトにより見込まれる重要な問題解決と環境面での効果、特に効果的な水資源管理に言及しました。

ナツビリシビリUNDP代表は、日本政府は、様々な分野における専門的・技術的な能力向上に加え、「国が決定する貢献(NDC: Nationally Determined Contribution)」の実施に対して大きな関心を寄せ、支援を行っている特別なドナーの一つであると述べ、日本政府及び日本の効果的な協力に謝意を表明しました。

福島大使よりは、このプロジェクトが、ロリ州とシラク州における灌漑農業に伴うエネルギー使用からの二酸化炭素排出量を削減させるとともに、農業生産性及び自給率を高めつつ、パリ協定の下でのアルメニアの「国が決定する貢献」の達成に役立つことを確信している旨述べました。



福島大使、サノシヤン地域行政・インフラ大臣、シミジャン環境大臣、ナツビリシビリUNDPアルメニア事務所代表(左から)



サノシヤン地域行政・インフラ大臣及びナツビリシビリUNDPアルメニア事務所代表によるプロジェクト・ドキュメントへの署名



出席者によるスピーチ



テルテリヤン・地域行政・インフラ省次官及びハチャトゥリヤン・ロリ州知事(左から)



参加者の様子



プロジェクトのバナー

【写真提供:UNDP】